

Japan Library Fair and Forum 2023

図書館総合展 2023

【11月14日開催】



オープンアクセス政策下における モニタリングとコンプライアンスの実践

講演スライドは下記に掲載しています:

<https://www.chorusaccess.org/events/jst-chorus-forum-the-development-of-national-open-access-strategies/>

Japan Library Fair and Forum 2023

図書館総合展 2023

【11月14日開催】



オープンアクセス政策下における モニタリングとコンプライアンスの実践

ご挨拶：

マーク・ロバートソン氏 CHORUS アジア太平洋開発ディレクター

中島 律子氏 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）情報基盤事業部長



日本における CHORUS フォーラム

- 2017 Japan Library Fair - **MONITORING OPEN ACCESS**
 - 2020 - **CHORUS JST WORKSHOP FOR INSTITUTIONS**
 - 2020 Japan Library Fair – **JST/CHORUS WORKING TOGETHER TO MONITOR OPEN SCIENCE**
 - 2021 JOSS - **FAIR DATA FROM FUNDING TO PUBLICATION**
 - 2022 JOSS - **JST/CHORUS - RESEARCH INTEGRITY**
 - 2022 Japan Library Fair - **OPEN ACCESS, DATASETS, AND PREPRINTS**
 - 2023 JOSS - **The Development of National Open Access Strategies**
- 2017 図書館総合展 – **オープンアクセス状況の把握**
 - 2020 - **CHORUS JSTによる機関向けワークショップ**
 - 2020 図書館総合展 – **オープンサイエンスフレームワークの広がりの可能性を探る**
 - 2021 JOSS –**研究ワークフローにおけるFAIRデータ（ファンディングから論文出版まで）**
 - 2022 JOSS - **JST/CHORUS –研究の健全性・公正性**
 - 2022 図書館総合展 –**オープンアクセス、データセット、プレプリント**
 - 2023 JOSS - **国レベルでのオープンアクセス戦略」開催趣旨**

For information about CHORUS please access <https://www.chorusaccess.org>

Platinum Sponsors プラチナスポンサー



Association for
Computing Machinery



Gold Sponsors ゴールドスポンサー



ACS Publications
Most Trusted. Most Cited. Most Read.

IOP Publishing



Silver Sponsors シルバースポンサー



CHORUS

Advancing Public Access to Research | www.chorusaccess.org



オープンアクセス政策下における モニタリングとコンプライアンスの実践

- 本年5月のG7を踏まえ、公的資金による研究成果論文等のオープンアクセスに関する国の方針が検討中。
- 10月19日の内閣府の会合で、「我が国のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方(案)」が提示された。競争的研究費の**2025年度新規公募分から学術論文等の即時オープンアクセスを義務化**。
- これを受けて、国のオープンアクセス方針が2023年度に明示される予定。

研究者、研究機関、研究助成機関は、新しいオープンアクセス政策への準拠が求められ、課題の把握や研究者の支援に向けて、**実施状況把握のための『モニタリング』が重要な課題**となる。

しかし、即時オープンアクセス政策の実現に向けては次のような多様な論点があり十分な議論が必要。

- 著者最終稿（学術出版者受理原稿）の機関リポジトリへの掲載について
- 著者最終稿の公的機関や研究機関が運営するもしくは分野別の公開リポジトリへの掲載について
- 研究成果のプレプリント・プラットフォームへの学術誌投稿前の論文（プレプリント）の投稿について
- 学術出版者が発行するフルオープンアクセス誌（Gold OA）もしくはハイブリッド誌に論文掲載料（Article Processing Charge, APC）を支払う論文投稿・公開について
- オープンアクセスに転換するための契約（Transformative Agreement/Journal、Read& Publish、Publish & Read、Subscribe to Open等）について

公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方（案）（概要）

<背景・課題>

- 公的資金によって生み出された論文や研究データ等の研究成果は国民に広く還元されるべきものであるが、その流通はグローバルな学術出版社等(学術プラットフォーマー)の市場支配の下に置かれている。
- 2000年代以降、電子ジャーナル※1購読料は継続的に高騰。さらに、2010年代以降、各研究者が「オープンアクセス掲載公開料※2」を負担するビジネスモデルが台頭し、この双方により大学や研究者の経済的負担が増大している。
- 我が国の競争力を高めるために、研究者が自らの研究成果を自由にかつ広く公開・共有することができ、国民が広くその知的資産にアクセスできる環境の構築（オープンアクセス化）が必要である。
- G7科学技術大臣コミュニケ(2023年5月)において、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時オープンアクセスを支援する旨明記。

※1 電子ジャーナル：電子化された学術雑誌。パソコン端末等で論文をダウンロードし閲覧

※2 論文1本平均30万円～ネイチャー誌は約150万円

<公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方（案）のポイント>

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会

理念

公的資金により生み出された研究成果の国民への還元と地球規模課題の解決に貢献

国全体の購読料及びオープンアクセス掲載公開料の総額の経済的負担の適正化

我が国の研究成果の発信力の向上

- 2025年度より新たに公募する競争的研究費を受給する者（法人を含む。）に対し、論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等へ掲載を義務づける。
- 学術プラットフォーマーに対する大学を主体とする集団交渉の体制構築を支援し、我が国の公的資金全体における負担軽減を図る。
- 大学等における機関リポジトリ等の価値向上、発信力の強化を行う。

論文及び根拠データの即時オープンアクセスの実現

Japan Library Fair and Forum 2023

図書館総合展 2023

【11月14日開催】



オープンアクセス政策下における モニタリングとコンプライアンスの実践

モデレーター

土屋 俊氏 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 相談役



Panelists – 登壇者 (in order of appearance)

木下 直 氏

国立大学法人 東北大学附属図書館情報管理課長

武内 八重子氏

国立大学法人 千葉大学附属図書館 利用支援企画課 副課長

小野寺 千栄氏

国立研究開発法人 物質・材料研究機構 技術開発・共用部門

材料データプラットフォーム データ収集ユニット 主任エンジニア

岡田 大二朗氏

国立研究開発法人 科学技術振興機構 情報基盤事業部 主査

河合 将志氏

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

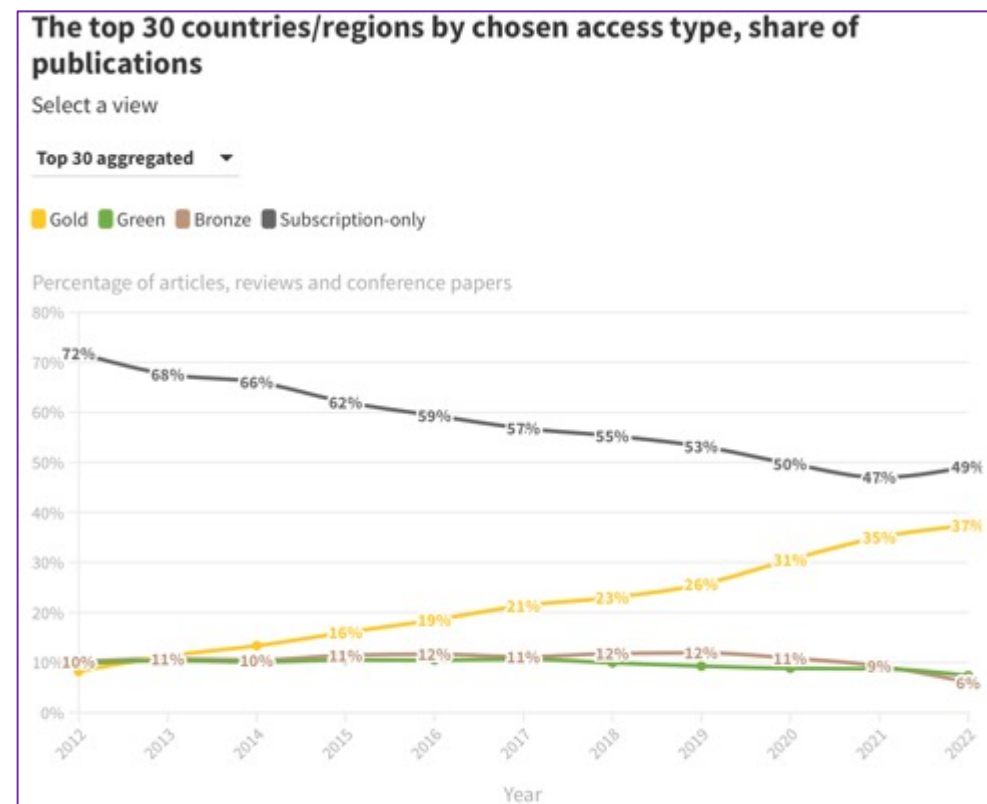
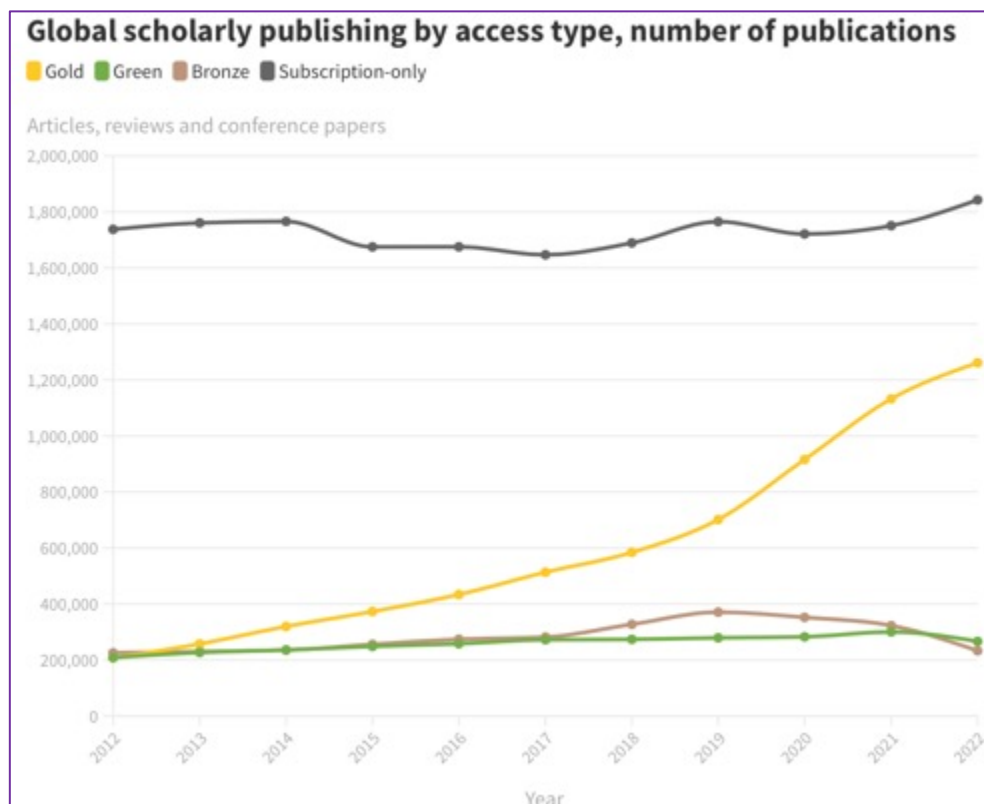
オープンサイエンス基盤研究センター 特任研究員

Presentations

Global Scholarly Publishing by Access Type

Share of publications from the STM OA Dashboard

<https://www.stm-assoc.org/oa-dashboard/>

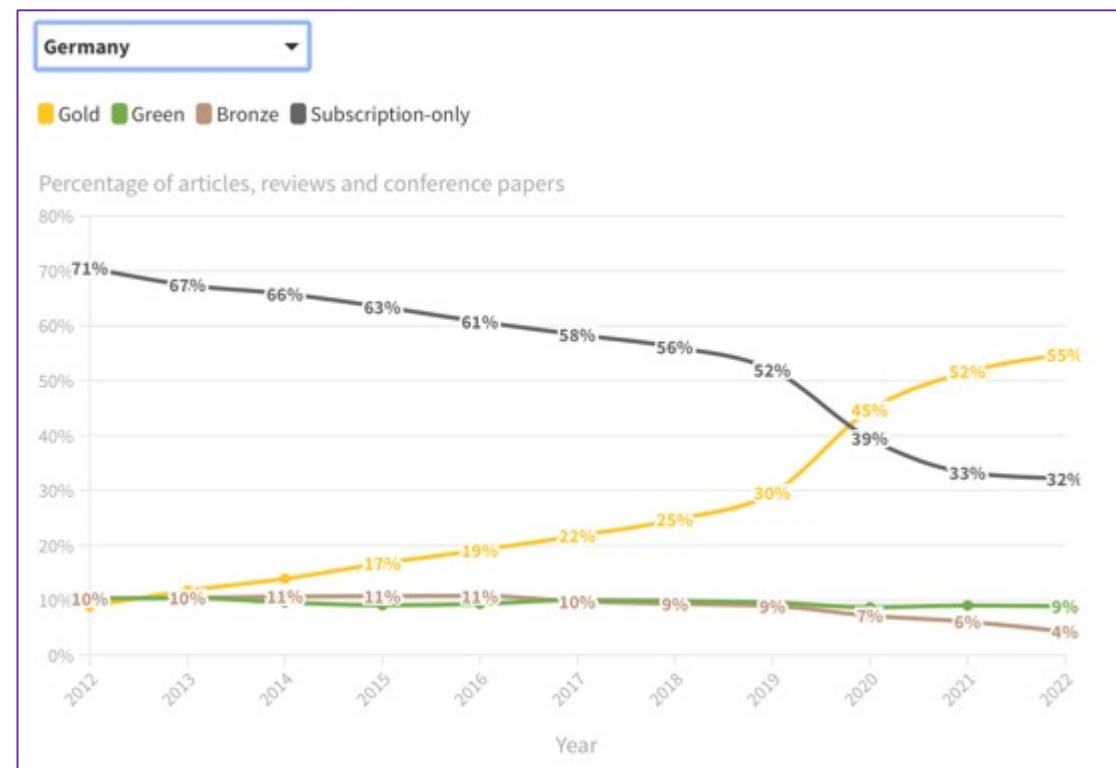
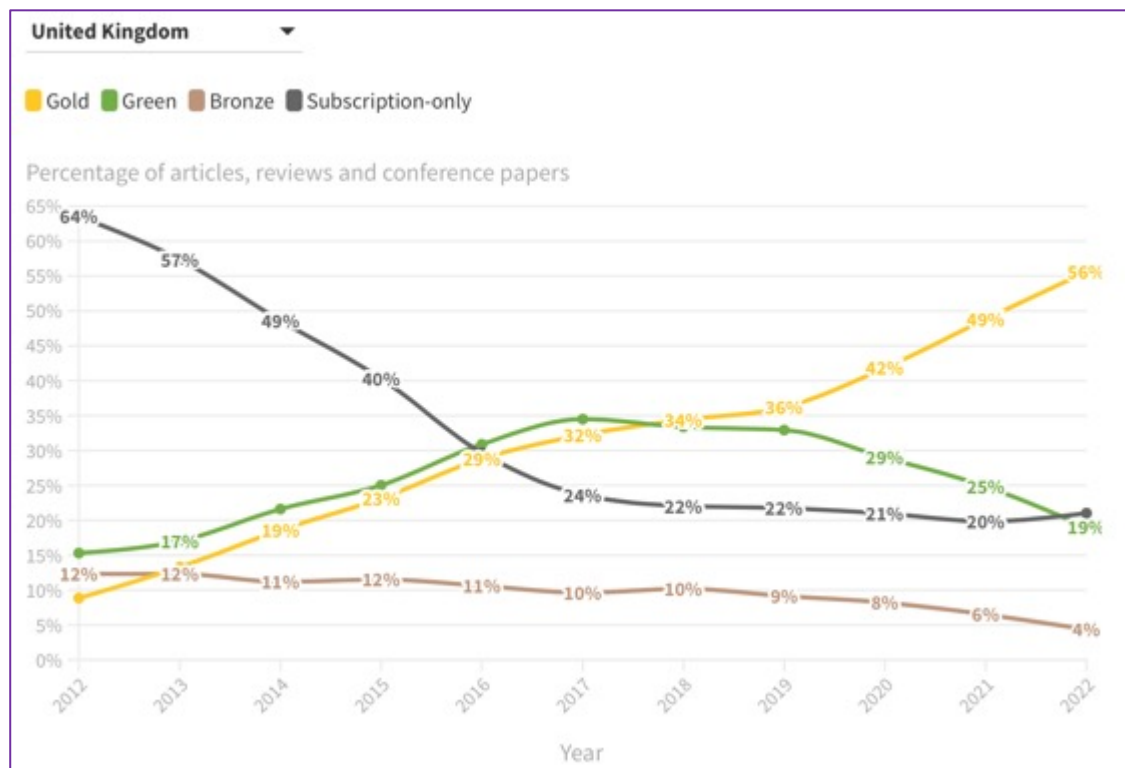


Source: [Scopus, 2023](#) • Countries/regions selected and ranked by number of articles, reviews, conference papers attributable by country in which corresponding author is based in 2022.

Global Scholarly Publishing by Access Type

Share of publications from the STM OA Dashboard

<https://www.stm-assoc.org/oa-dashboard/>

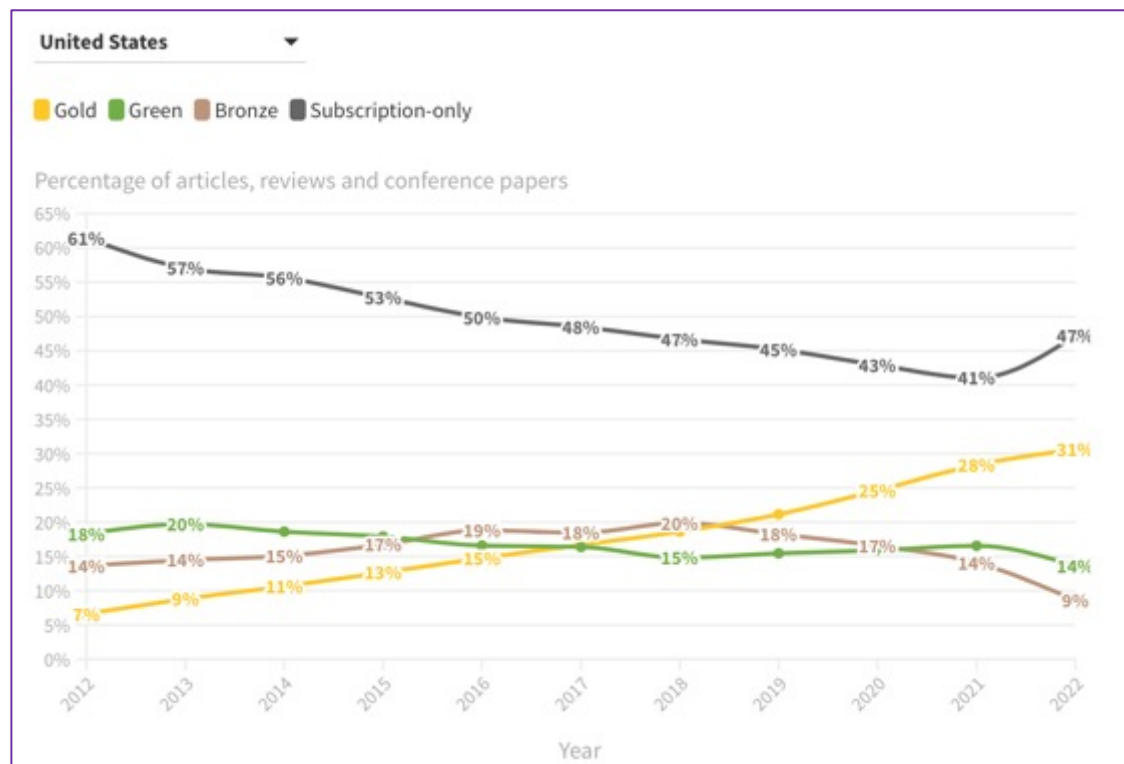
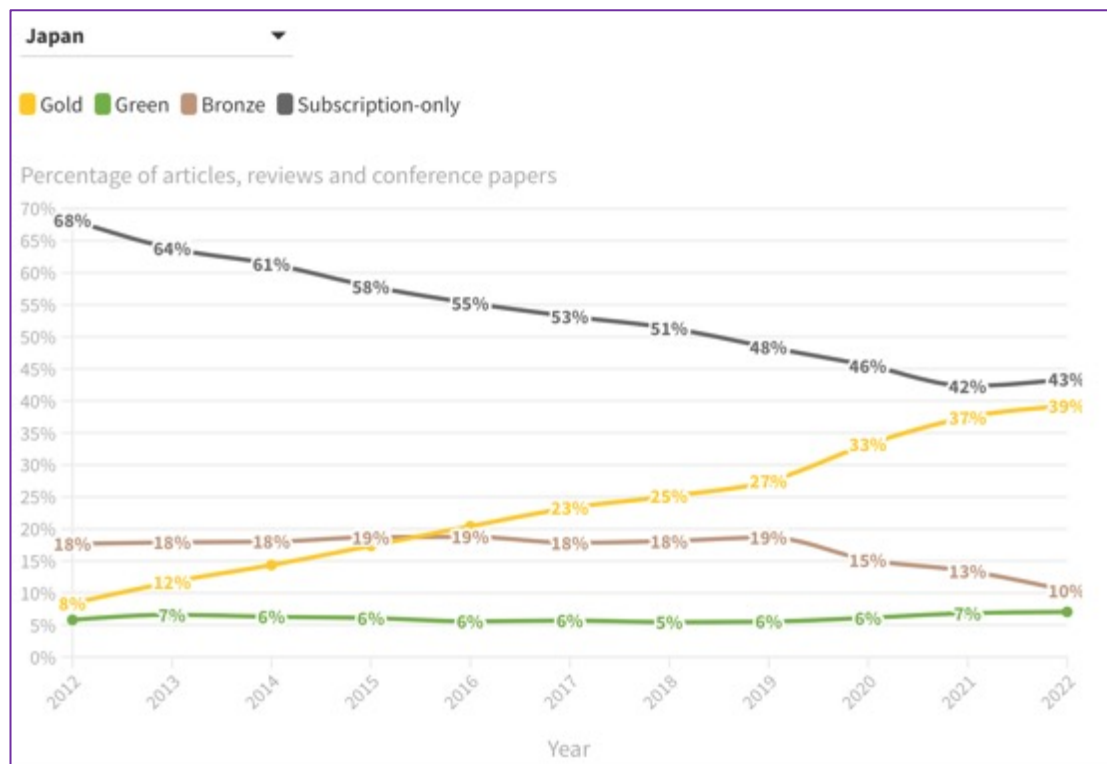


Source: [Scopus, 2023](#) • Countries/regions selected and ranked by number of articles, reviews, conference papers attributable by country in which corresponding author is based in 2022.

Global Scholarly Publishing by Access Type

Share of publications from the STM OA Dashboard

<https://www.stm-assoc.org/oa-dashboard/>

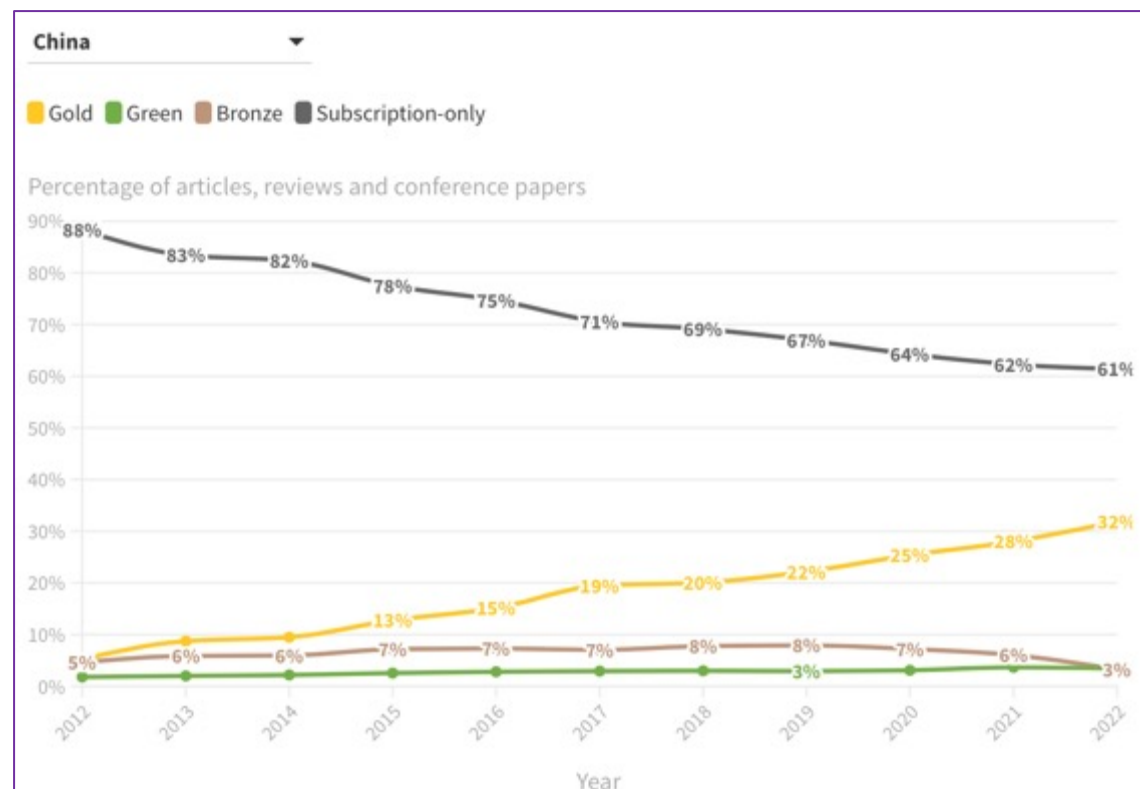
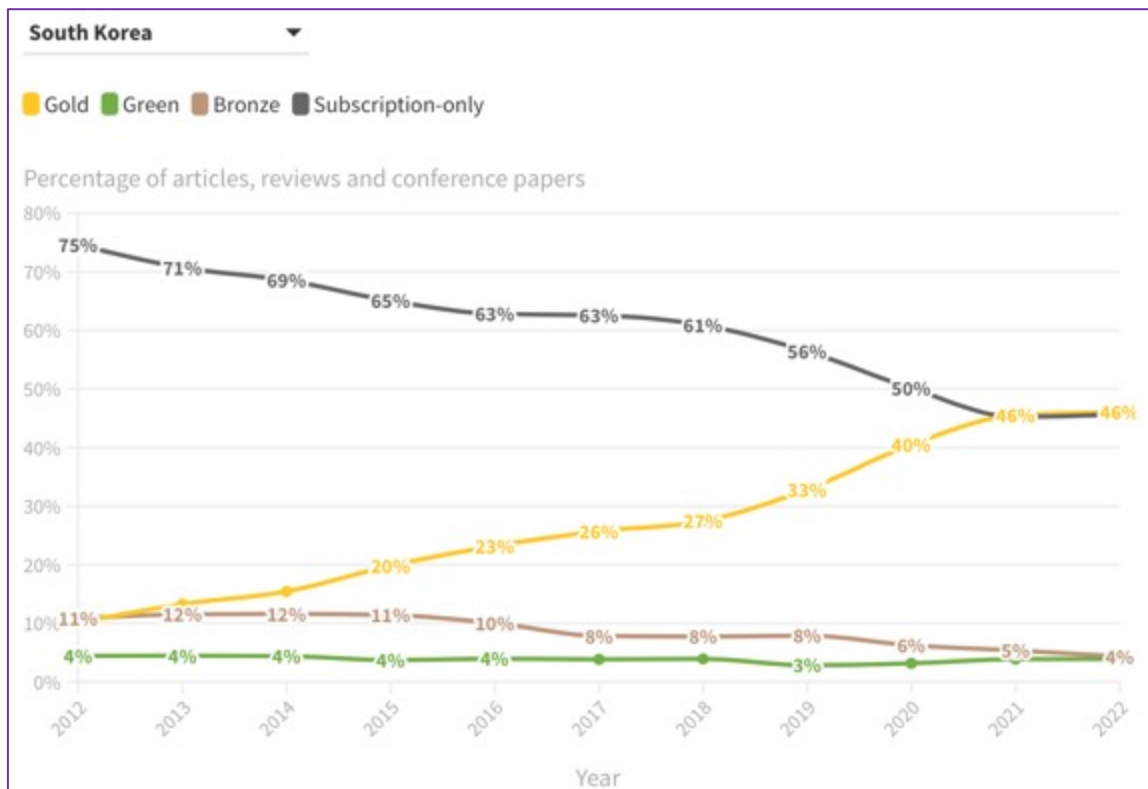


Source: [Scopus, 2023](#) • Countries/regions selected and ranked by number of articles, reviews, conference papers attributable by country in which corresponding author is based in 2022.

Global Scholarly Publishing by Access Type

Share of publications from the STM OA Dashboard

<https://www.stm-assoc.org/oa-dashboard/>



Source: [Scopus, 2023](#) • Countries/regions selected and ranked by number of articles, reviews, conference papers attributable by country in which corresponding author is based in 2022.



Panel Discussion / パネルディスカッション

モデレーター

土屋 俊氏 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 相談役

皆様からの質問にパネリストが回答します。

質問をチャットのウィンドウに書き込んで下さい。

その際、どのパネリストへの質問かも記載して下さい。

Concluding Remarks

結びの言葉

CHORUSについては下記のサイトをご覧ください：

<https://www.chorusaccess.org>

講演スライドは下記に掲載しています：

<https://www.chorusaccess.org/events/jst-chorus-forum-the-development-of-national-open-access-strategies/>

Platinum Sponsors プラチナスポンサー



Association for
Computing Machinery



Gold Sponsors ゴールドスポンサー



ACS Publications
Most Trusted. Most Cited. Most Read.

IOP Publishing



Silver Sponsors シルバースポンサー



STM



CHORUS

Advancing Public Access to Research | www.chorusaccess.org

